

住宅リフォーム促進事業などの廃止方針に驚きの声

上越市は先日の市議会総務常任委員会で、平成31年度から34年度にかけて廃止する25の事務事業を明らかにしました。

対象となった25事業のうち主なものは、①オンパズパーソン制度、②市政モニター、③勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金事業、④運転免許証自主返納支援事業、⑤住宅太陽光発電システム及びペレットストーブ補助、⑥風力発電事業、⑦ボランティア利用助成（美助っ人さん）事業、⑧子育て支援利子補給補助、⑨高校生資格取得支援補助金、⑩地域経済活性化店舗等改装促進事業補助金、⑪住宅リフォーム促進事業、⑫牧区及び三和区都市・農村交流促進事業、⑬観光農園

等整備促進事業、⑭農産物等輸出促進事業、⑮インクルーシブ教育システム普及指導主事の配置などです。

総務常任委員会では、委員から、「（ペレットストーブへの補助廃止については）考え方が基本におかしい」「就職に役立つ技能系の資格取得の際の補助中止も無謀だ。もっと深く内容を精査し、計画を練り直すべきだ」など厳しい意見が相次ぎました。

これらの廃止方針についてはマスコミでもとり上げられたこともあって、市民の中からは、「これまで経済効果が大きいと評価されていたのに何故廃止するのか」「大きな箱モノを造ったつけか」などといった驚きの声が上がっています。

とくに問題視された廃止事業のひとつは、住宅リフォーム促進事業です。同事業は、平成31年度はこれまでと同様に取り組まれますが、市は、「消費税率10%への引き上げ後の一定期間をもって廃止する」としています。

これに対してある関係者は、「1月に建築関連業者18団体で要望した際には、市長は『みなさんにとって地域にとって大事な事業。これまでどおりの対応が必要』だと言ってきた。これは報道もされている。どうしてこういうことになるのか」と怒りの声を上げていました。

今後、他の事業でも存続を求める強い声が上がってくるものと思われています。

福島第一原発過酷事故のすさまじさを再確認



「つなげよう脱原発の輪 上越の会」主催の豊田直己写真展を観てきました。福島第一原発事故によってふるさとを追われた人たちの叫びとささやきをとらえた写真展、改めて過酷事故のすさまじさを再確認できました。

この写真展へ出かけるとき、ひよっとすれば、あの時の写真に出合えるかもと期待しました。放射能汚染された牛たちを殺処分するために家畜商の車に牛たちを乗せ、屠場へ送る場面の写真です。実は、事故後、この場面はテレビで映し出されました。牛飼いの人たちは「かんべんな、かんべんな」と言って、涙を流していたのですが、そのときの写真を豊田さんも撮っていたのではないかと思います。

展示された写真には見当たりませんが、会場で販売されていた豊田直己写真集の1冊の中にありました。何度見ても胸が締め付けられます。



【コマチフジ】ハーゲンベルギア属マメ科の花。小型にしたコチョウランという感じのかわいい花です。つる性の常緑低木で、挿し木もできるそうです。写真は白い花ですが、この家では紫色の花も咲かせていました。2月21日撮影。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1899 2019.3.3

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五四七回 早春の「大合唱」

二月の下旬、ポカポカ陽気の日の午後のことでした。初めての、素敵な出会いがまたありました。人間ではありません。小さな動物との出会いです。

尾神岳に近い集落で、パンフレットを持ってある家の玄関先まで行くと、その家の脇の方から、「ピィピィ」という鳴き声が聞こえてきました。私の子ども時代、箱に入れられてわが家に戻ってきたヒヨコとそっくりの鳴き声、いつも賑やかです。

どこで鳴いているんだろと気になって歩きはじめたところへ、その家のS子さんが出てこられました。

驚きました。鳴き声は鳥ではなく、カエルだということです。それも、聞いたことのない名前でした。「ヤマアカガエルなんですよ。静かに近寄らないと鳴きやんでしまいます」そう言って、S子さんは、住宅の西側にある荒れた田んぼのそばへと私を案内してくれました。

眼の前にある田んぼの面積は三畝（アール）ほどです。そこにはヨシらしき草がたぐさん横になっていました。脇の水路から水が入っているのか、それとも湧き水があるのか、田んぼの端っこの方には水がたっぷりたまっていました。

一時はピタッと鳴きやんだカエルも、私たちが歩きを止めてじっとしていると、再び賑やかな声を出し始めました。それも「ピィピィ」だけでなく、「コッコッコ」「キヤッキヤッキヤ」も加わり、大合唱へと「発展」していきましました。

私は最初、ヨシの間にカエルがいて、鳴いているものかと思っていました。でも、そこだけではなく、水の中にもいて、数え切れないほどのカエルたちが田んぼの中で動き回っていたのです。水がたまっているところでカエルが動く

と、水の輪が次々と広がっていきます。カエルが作りだす輪は水たまりのあちこちでできました。そして、ヤマアカガエルの姿も確認できました。喉を大きく膨らませているカエル、泳ぎを開始するカエルなど、見ているだけでもおもしろく、私はずっとそこにいたい気持ちになりました。

よく見ると、水たまりにはカエルの卵の塊（かたまり）も浮かんでいました。思わず、「わー、懐かしい。カエルの卵だ」と叫んでしまいました。光の加減もあるのでしょうか、ゼリー状になったガエルの卵の塊は少し黒っぽく見えました。

案内してくださったS子さんによると、ヤマアカガエルたちが鳴きはじめてのは前の週の金曜日頃からとのことでした。鳴いているのはメスを求めるオスです。最初は夜に鳴き、それも夜中じゅう鳴いていて、寝るにはうるさいくらい大きな鳴き声だったといいます。それが次第に昼間鳴くようになって、ほぼ2週間くらいで鳴き声は収まるとのことでした。

私が訪ねたときはちょうど午後三時頃でした。二月とは思えない暖かな日差しがこの田んぼにも降り注いでいました。私が動いていてもルンルン気分でしたから、同じようにカエルたちも最高の気分だったのかも知れません。

どうあれ、ヤマアカガエルのオスの求愛の鳴き声が大きく盛り上がっているところへ私が行ったというこのようです。

私はこの日まで、カエルは田植え頃にならないと繁殖期はやってこないものかと思っていました。でも、まだ寒さが残る早春に繁殖期を迎え、「大合唱」や「カエル合戦」を繰り広げるカエルもいる。早春の「大合唱」に初めて出合った私はもう最高の興奮状態でした。

春を告げるネコヤナギも

直江津の三ハ市で売っていた少し赤味のあるネコヤナギの園芸種かと思いますが、「春が来た」感じがしていいもんですね。

川沿いのネコヤナギも花がつきはじめましたよ。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月20日(水)	2月27日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.053	0.050

オーレンプラザ利用の難点の1つは駐車場

「オーレンプラザが混む日は駐車場所の確保がたいへんだよ」という声をよく耳にします。

24日、写真展を見ようと思いましたが、オーレンプラザ前も公園内の駐車場も満杯でした。晴れていなかったら、たいへんなことになりますね。

